

## ピュアな喘息FAQ 7

『ペットを飼い続けてもよいでしょうか?』これも多い質問です。

ハムスターに噛まれて死亡という記事を、この「わかば」に掲載したことがありました。ショッキングな報告でしたから覚えていらっしゃる方も多いかもしれません。そういう危険なペット(ワニとかヘビとかも)は安全性の点からよくないというのは、誰の目にも明かです。金魚は大丈夫、安全とされています。

通常は犬とか猫、最近ではウサギ(石川県喘息友の会会長さんも飼っている。喘息のお子さんも含めて喘息には影響が無いようです)、ペレット(石川県喘息友の会名誉会長さんが飼っておられた。息子さんを手離されたので、やむを得ず引き取られたらしい)、イタチ、モルモットなどと広がっております。

奥様が犬好きで「私は川の字になって寝ています」と仰るので、子どもさんを含めて川の字かと思ったら、左側に御主人、奥様が真ん中、右側が犬であるとお話して下さった例もありました。

そういったペットの問題についての回答は以下のようになります。

メリット、デメリットを天秤にかけ、家族や医師とよく相談し、お別れするか飼い続けるかを定める。飼い続ける場合は喘息の悪化が起こらないように対策を採り続ける。



## ) メリット

### ペットによる癒しの効果

ストレスの多いこの世にあって、ペットは癒しの効果を与えてくれるとされています。犬を散歩させている光景をよく見ますが、犬が喜んでいるのはもちろんですが、散歩させている人も実に幸せそうです。

喘息を持っている人にとっては、そのペットによる喘息への影響と癒しの効果をよく天秤にかける必要があります。

### 赤児に対する免疫への効果

戦前の清潔でない環境で生まれ育った人には、杉花粉症、アトピー性皮膚炎の発症率が低いという事実があります。リンパ球が細菌と闘うために全力を挙げるので、ダニや花粉などには抗体を作りにくい身体になると言われています。これを「衛生仮説」と呼んでいます。

馬小屋や牛小屋のそばで、たまにはその糞や尿にまみれて乳児期を過ごすのが理想だというスライドが、学会で引用されました。外と出入りする猫が2匹以上いる家の子どもには、アトピーや喘息の子は少ないとされる報告も出ています。

## ) デメリット

血液の R A S T の抗体価を調べれば、最高6から最低0までどれくらい抗体があるのかわかります。高い人が、より影響を受けます。喘息発作が接触するとは起こる人は、飼うことにはデメリットが多いと判断されます。

赤児や乳児期に猫を飼っているのではなく、乳児期に清潔な環境で育てすぎた場合は、幼児期以降に何匹猫を飼おうともひどくなるばかりであったりと、家族の発症を促す場合があります。

## ) 対策

発作が起こらないような接触の仕方の工夫（外で飼うとか、近づかない）お別れする、効果的薬物療法で自分を守るということが必要な対策です。